

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》 鈴木英樹 長谷川純子 大内みふか 山根裕司

【概要】

日常生活動作学 で学んだ知識を踏まえ、実際のADL能力向上に向けた具体的支援手法について実践する能力を高めていく。具体的には、ベッド上での寝返りや起き上がり、ベッドから車いすへの移乗といった動作獲得のための指導方法および家族や関係者への介助方法の指導、住宅改修や福祉用具の選定などの生活環境調整も含め、疾患や障害の特性に応じた日常生活動作に対する援助方法について習得する。

【学習目標】

ADL指導のための知識を理解するため、疾患による指導の特性や注意点などを学び、説明ができる。

1. 実際のADL能力向上に向けた具体的手法を理解し、説明することができる。
2. 動作獲得のための指導方法を理解し実践できる。
3. 生活環境調整のための基本的知識を理解し、説明することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	日常生活活動の支援意義と具体的な方策について	鈴木英樹
2) 8	疾患別ADLの理解	慢性関節リウマチ 骨関節疾患(その1) 骨関節疾患(その2) 脳血管障害 パーキンソン病、認知症 多系統萎縮症 腰痛症、肩関節周囲炎	山根裕司 山根裕司 山根裕司 長谷川純子 大内みふか 鈴木英樹 長谷川純子 鈴木英樹 大内みふか
9) 10	演習	起居移動動作の体験と動作指導演習	全担当教員
11	福祉用具活用について	ADL支援に関する福祉用具活用の意義と具体的な品目の理解	鈴木英樹
12) 14	演習	様々な福祉用具の使用および動作指導演習	全担当教員
15	まとめ	15回の講義を振り返り、理学療法士と日常生活活動の関連性について理解を再確認	鈴木英樹

【評価方法】

定期試験(オンライン) 100%

定期試験及び追再試験実施後、問合せがあった場合には模範解答を提示する。

【備考】

教科書 : 柴 喜崇 他 編 「PT・OTビジュアルテキストADL第一版」羊土社 2015年

参考書 : 伊藤利之 他 編 「新版 日常生活活動(ADL)~評価と支援の実際~」 医歯薬出版 2010年
その他は随時紹介

【学習の準備】

実技の際には動きやすい服装で臨むこと。

実技の際には全体をグループに分け実施する。

予習は、次回の授業範囲の教科書を読んで理解しておくこと(80分)。

復習は、教科書や配布プリントなどを活用し、学習を深めておくこと(80分)。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木英樹（理学療法士、介護支援専門員）

長谷川純子（理学療法士）

山根裕司（理学療法士、アスレティックトレーナー）

大内みふか（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関及び訪問リハビリテーション業務での実践経験を踏まえ、障がいをもつ方々の生活上の課題や、その課題解決のためのADL面からの働きかけについて演習を交えながら理解を深める。